

くち あけ づか みなみ

第2回 石巻古墳ウォーク！

口明塚南古墳 発掘調査 現地見学会

令和4年1月22日（土）
主催：豊橋市文化財センター

◆馬越長火塚古墳群

馬越長火塚古墳群は馬越長火塚古墳、大塚南古墳、口明塚南古墳の3基からなります。本古墳群は古墳時代後期から終末期に東三河地方を治めた有力者の墓で、3世代にわたる首長の墓の様相をたどることができる重要な古墳群です。平成28年に東海地方を代表する首長の墓であると評価され、国の史跡に指定されました。

3基の古墳は東から西に伸びた台地の上に築られました。馬越長火塚古墳を東側の頂点として三角形になるように配置され、それぞれの古墳の間は谷で隔てられています。江戸時代以降に畑として造成されたため、周辺環境を含めて古墳の姿は大きく改変されています。

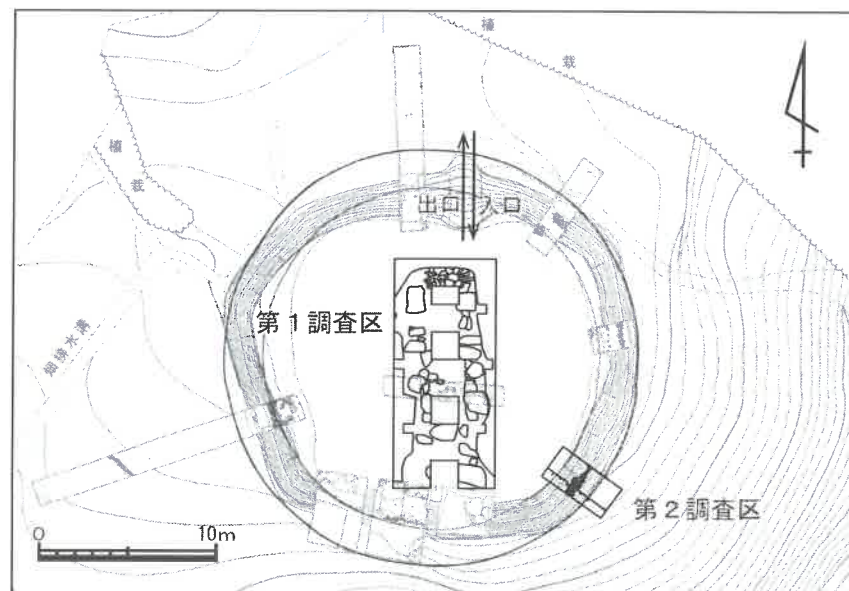


古墳群の位置

◆口明塚南古墳の調査目的

文化財センターは馬越長火塚古墳群を適切に保存し、後世に継承していくために古墳群の整備と活用を計画しています。馬越長火塚古墳と大塚南古墳の調査を昨年度に行い、今年度はこの古墳を調査しています。

今回の調査は、横穴式石室の残存状況や構造、規模を明らかにして、今後の整備の根拠を得ることを主な目的としています。調査結果は整備基本計画に活かす予定です。



調査区の位置

◆これまでの調査

口明塚南古墳は、古墳群の最後の首長の墓として7世紀前葉に築られました。この古墳も大塚南古墳と同じように柿畑として利用されたため、墳丘は上がたいらに削られています。

平成20年度の発掘調査により直径23メートルの円墳と確認されました。また横穴式石室の入口部分を調査したところ、金メッキされた空玉（うつろだま）や毛彫り馬具（線状の文様を彫り込んだ馬具）の破片が見つかりました。



過去の調査で見つかった遺物

新型コロナウイルス感染対策

・マスクを着用して下さい
・密にならないよう、まわりの方と距離をおいてください

◆調査で見つかった土器 ※縮尺不同



須恵器の坏の破片
7世紀
（古墳時代終末期）



須恵器の甕の破片
7世紀
（古墳時代終末期）



山茶碗
12世紀
（平安時代末期）

出土した遺物は古墳時代から江戸時代までの幅広い時期のものです。これらが見つかったことで、7世紀に古墳が築かれた後、12世紀までは何らかの形で石室は利用されて残っていたことが分かりました。また石室の石が抜き取られた時期は少なくとも12世紀以降であると言えます。この他にも江戸時代中頃の瓦が見つかりました。この瓦については、石室から石を抜き取る時や畑を造成した時の混ざり込みなど、様々な可能性が考えられます。

◆第2調査区

過去の調査で古墳の大きさや構造などを明らかにすることはできましたが、より詳細に把握するためにこの調査区を設置しました。結果としては、畑の造成時の盛土が厚く検出され、その下に墳丘本来の盛土を確認しました。

またトレンチ中央で列石を検出しました。小型の石が弧を描き葺石に近い施工技法で積まれている点は、過去の調査結果と一致します。周溝などの外部施設の痕跡は今回も確認されませんでした。



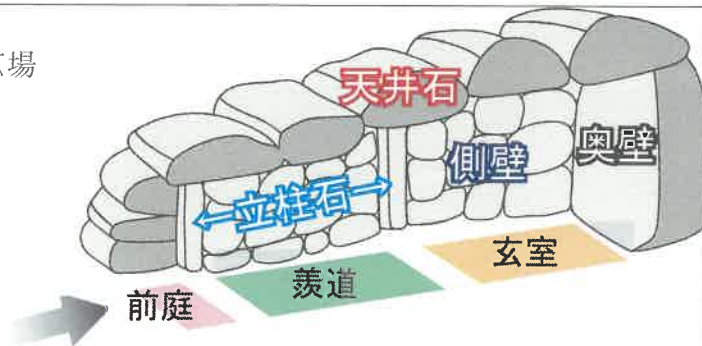
第2調査区の完掘写真



左の写真に色を付けて解説したもの

◆横穴式石室の部位の名称

- ・前庭（ぜんてい）：祭祀（さいし）が行われた広場
- ・羨道（せんどう）：入口と玄室をつなぐ通路
- ・玄室（げんしつ）：遺体を安置する場所
- ・立柱石（りっちゅうせき）：部屋を仕切る石
- ・側壁（そくへき）：石室の壁となる石
- ・奥壁（おくへき）：石室の一番奥の石



◆第1調査区

調査の結果、横穴式石室は大きく破壊されていたことが判明しました。しかし、原位置を保っている立柱石や側壁がわずかに残っていたため、石室の規模や構造を明らかにすることができました。石材は周辺の古墳と同じく石灰岩を多用しており、一部にチャートも使われています。石材の大きさは、大塚南古墳よりも大きなものを使っており、馬越長火塚古墳で使われた大きさに近いことも分かりました。

この古墳が築かれた時代は、日本全体で横穴式石室の小型化が進んでいます。そのような時代であるにも関わらず、これほど大型の石室は珍しいです。埋葬された人がいかに地位の高い有力者であったのかをよく示しています。

①裏込めの石

石室の一番奥には奥壁がありますが、今回の調査で奥壁は見つかりませんでした。写真にある複数の石は、奥壁を支えるための裏込めとして使われていたと考えられます。



②立柱石

羨道と玄室を仕切る石で、⑦と対をなしています。この石室の立柱石は側壁よりも少し内側に出して置かれています。右の図を見ると、青色の側壁よりも水色の立柱石は少し中心に寄っていることが分かります。



③側壁

南北方向に石が一直線に並んでいます。石室の側壁がどのようなになっていたのかが分かりやすい場所です。

写真の上にある二つの大きな石は2段に積まれています。石材は下がチャートで上が石灰岩です。どちらも長さが1メートル以上あります。



④天井石と立柱石

上にある横長で大きな石が天井石、下にある縦長で白い石が立柱石です。

天井石は最初からここにあったわけではなく、おそらく石室を壊す時にここへ移動したと考えられます。

立柱石は前庭と羨道を仕切る石で、⑤と対をなしています。



⑤立柱石

④と対をなす立柱石です。他の立柱石と比べて傾いていますが、縦長の石を使っている点からも立柱石と判断できます。



⑥側壁

側壁の左端がまっすぐになっています。この直線部分が石室の大きさを測る位置となり、東にある側壁まで約1.8メートルあります。



⑦立柱石

②と対をなす立柱石です。この石も少し傾いていますが、縦長の石であることや他の立柱石と並んでいるため、元の位置から大幅に動かされていないでしょう。



調査結果のポイント

第1調査区

- ・横穴式石室は大きく破壊されていました。
- ・石室の大きさは全長10メートル以上、最大幅2メートルの大規模な石室です。
- ・1メートルを超える巨石が使われています。
- ・他の古墳群と同様に石灰岩を多用しています。

第2調査区

- ・過去の調査と同様の列石を確認しました。
- ・その他の外部施設は確認されませんでした。

※資料の内容は見学会現在のものです。その後の調査や整理を通して変更する可能性があります。